大江医家史料館（中津市）完成し公開

中津藩医の大江雲沢の旧宅が市に寄贈され、本年七月に壁のぬりかえ等の工事が終り、公開にいたった。そこで当学会評議員の川嶌眞人先生のご案内で九月二十三日訪れることができた。この史料館は村上医家史料館とともに中津の医学史を語る双璧をなすもので、村上医家史料館が町屋風であるにくらべ、大江医家史料館は白亜の屋敷風である。

九州ではじめての解剖を行った村上玄水の墓がある東林禅寺の並びに、この大江旧宅が存在するのも因縁めいている。事実、大江家へ村上家より輿入れされた方もおられるとのことであった。

明治になって大江雲沢が中心となって中津に医学校が造られたが、雲沢がどのような医師であったか、もうひとつ判然としなかった。それを川嶌眞人先生が雲沢の著作に書きこまれた医訓を発見し、さらに華岡青洲の画像（春林軒皆伝の証）も発掘された。また同家に伝わった吉原流の正骨に関する新資料も見出され、蒲原宏理事長と共同発表（本年の第一〇五回学会総会）され、日本整形外科前史に輝かしい一頁が加えられた。これらの現物資料を拝見でき、うるところは大であった。

また村上医家の方には三浦梅園と根来東叔の「人身連骨眞形図」との関係、佐賀鍋島藩より早かった辛島正庵の種痘の業績など興味つきない展示がなされている。

なお、大江家のうら庭に〝薬園〟再建作業がすすめられ数年後にはマンダラゲ等が咲きほこる姿となる由であった。

二年後には中津市で川嶌眞人会長の下に一〇七回学会総会が開かれる。今から中津の村上、大江両史料館他を見学する予定をたてられるよう会員各位におすすめしたい。

（中西　淳朗）

＊＊＊紹　介＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

松木　明知　編

『日本牛痘種痘史文献目録』

一九九六年（平成八年）はエドワード・ジェンナーが牛痘種痘法を発見してから二〇〇年になる。日本医史学会ではこれを記念して『日本牛痘接種関連文献目録』を編集した。今回出版された松木明知編『日本牛痘種痘史文献目録』は医史学会編の文献目録と大いに異なっている。

収録文献数は、英文四編を含め、約二三〇編あり、必要と思われる文献には注を付けている。注では「富山において藩医横地元丈、酒井忠が種痘の普及に尽力したことを記す」と文献の内容を紹介したり、「長崎・京都・大阪における種痘法の歴史について詳述している好論文である」と批評したりしている。

本書の大きな特徴は「現在入手困難な雑誌に掲載されている論文」を復刻掲載し、未公刊史料を活字化していることである。入手困難な雑誌としては明治時代の雑誌があるが、明治三十六年発行の中外薬報に載った、かなまち（編）『徳川時代に於ける種痘に関する法令』があり、史料的価値の高く短い文献を全文載せている。長い文献としては松本　端が刀圭新報に連載した『大阪市種痘歴史』を「少し長文であるが重要なので全文を掲載する」と注記して、九十ページ近くに渡って転載している。この文献も史料的価値が高いものである。

未公刊史料の例としては、高橋痘庵『種痘対策ノ稿』（稿本）があり、全文を約十一ページにわたって掲載している。この史料は注によると、編者が秋田県角館の郷土史家から写本を譲り受けたもので、内容は「角館の高橋痘庵が、明治八年太平学校で種痘試験を受けた際の解答の草稿を整理したもの」である。

英文文献四編中二編の原文を転載している。一編は Earl R. Bull（鹿児島）の論文 "Vaccination in the Orient" である。編者は Bull について調査中とのこと。ご存知の方は編者松木氏に連絡して欲しい。もう一編は、北里研究所教授 Mikinosuke Miyajima（宮島幹之助）の論文 "The History of Vaccination in Japan" である。

医史学会編の『日本牛痘接種関連文献目録』は、医史学会会員が所蔵している文献などを報告してもらい、編集委員会でまとめたものであるが、『日本牛痘種痘史文献目録』は編者が一人で収集し、まとめたものである。あらためて敬服する。

（蔵方　宏昌）

〔岩波出版サービスセンター、東京都千代田区神田神保町二―三、電話〇三―三二六三―七〇七八、二〇〇二年八月二十日、二九四頁、非売品〕

中村　禎里　著

『近代生物学史論集』

中村禎里先生は日本医史学会の古くからの会員であるとともに、紹介者がハーヴィ研究を始めた若い日に最も大きな影響を受け、今も深く敬愛している科学史家である。その禎里先生が「古稀の自祝」として、これまでのご研究の一部を纏め上品な装丁の本として上梓し後進の者たちに贈ってくださった。線を引き書き込みをして何度も読み込んだ懐かしい論文の数々を今また読み直し、ここに紹介できることを幸せに思う。

本書には、一九六〇―七〇年代に発表された十七世紀近代生物学形成期に関する論文群と、比較的近年に発表された、ソビエト哲学と生物学、日本の分子遺伝学史、血清療法の先着権、栗本丹洲、設楽芝陽に関する研究の五編が納められている。このうち北里とベーリングの先着権をめぐる覚え書き